［事例発表］初めてのハゲタカビジネス対応

－本学紀要偽サイト被害－

松本ゆかり，三浦未央，武田理香子
札幌医科大学附属総合情報センター

1.背景

札幌医科大学附属総合情報センターの図書館部門は，令和 3 年度現在，着任 2 年未満の職員 2 名と 25 年以上の職員 3.5 名（2.5 名は再雇用職員）という世代交代の時期を迎えている。そのような過渡期の中で，本学医学部紀要「札幌医学雑誌:The Sapporo Medical Journal」の偽サイトが作られていることが，海外研究者からの問い合わせで判明した。

論文投稿料収入のみを目的とした粗悪雑誌「ハゲタカジャーナル」や，正当な学術雑誌を騙る偽サイト「ジャーナルハイジャック」について，知識はあったが，地方の公立大学である本学の紀要が巻き込まれるとは思いもよらず，手探りの中対応することとなった。

2.対応事例

本学のとった対応は以下のとおり。

(1) 問い合わせのあった海外研究者へ，直ちに当該 web サイトは本学とは無関係である旨を連絡
(2) 附属総合情報センターWeb サイト（日本語版，英語版）及び大学公式 Web サイト（英語版）に注意喚起文を掲載
(3) 国公私立大学図書館協議会及び日本医学図書館協会加盟館に，偽サイトに関する情報を共有
(4) 日本医学図書館協会メーリングリストにて対応のアドバイスを依頼
(5) 偽サイト作成者に対して，直ちにサイトを閉鎖するよう抗議のメールを送付
(6) 学内周知（メーリングリストにて注意喚起，医学部教授会で報告）
(7) 関係機関へ報告（文部科学省所管機関，北海道警察）
(8) Elsevier へ連絡し Scopus からの削除を依頼

3.考察

当該偽サイトについての問い合わせは，数件続いた後は収まり，対応においてトラブルになるような事例はなかった。しかし，ハイジャックされた点で本学は被害者であっても，偽サイトを信じて投稿した研究者からは加害者とみなされる可能性がある。被害拡大に荷担しないよう，素早く情報発信することの重要性を感じた。情報発信により問い合わせが止んだため，研究者も自衛のためにジャーナルサイトの真偽を確認しているものと推察される。

対応にあたり，全国の図書館員の皆様から複数のアドバイスをいただき，大変助けられた。この場を借りて感謝を表したい。